



子どもも大人も学ぶ「人権学習参観・懇談会」

先月23日の人権学習参観・懇談会へのご参加、ありがとうございました。各学年で「今、子どもたちにこんな力を付けたい。こんな心を育てたい。」という姿をめざして授業を行いました。お子さんの姿はいかがでしたか。

短時間ではありましたが、私も全学級の様子を見て回りました。普段の学習でも、落ち着いてよく考えている子どもたちですが、この日は、いつも以上に真剣に考え、進んで発表していました。それぞれの学年の内容を紹介します。

10/24(木) 人権学習参観と懇談会！

きのうは、人権学習参観がありました。私も全部のクラスを見ましたが、みんなしっかり考え、発表することができていましたね。「いじめや差別がいけないのはもう分かっている！私はしない」と思う人もいるかもしれませんが、「実はこんなところで人を傷つけている」ということを学ばないと、知らないうちにしてしまうのが『差別』です。いじめや差別をなくすには、しっかり学ぶことが何より大事です。きのうの学習で、あなたは何を学びましたか？



- ・ 1年…「いいところみつけ」自分のいいところを見つめたり、友だち、家の人から自分のいいところを見つけてもらい、自分にもよいところがあることに気付く。
- ・ 2年…「われた花びん」きめつけをすることのおかしさに気付き、きめつけをなくしてみんなが明るい気持ちで過ごすために大切なことを考える。
- ・ 3年…「見つめよう 安心・自信・自由（総合）」これまでに学んだことをもとに、いじめや差別のないクラスにするための取組を考える。
- ・ 4年…「いじりといじめ」いじりも、いじめと同じように、相手を傷つけることに気付き、相手の立場で考え、公正・公平な態度で接しようとする心情を育てる。
- ・ 5年…『ふつう』について考えよう」自分のふつうと相手のふつうは同じでないことや、その人のふつう（自分らしさ）をお互いに認め合う大切さに気付く。
- ・ 6年…「お茶くみ当番」主人公が受けた差別のおかしさやその思いを考えることを通して、差別をなくしていくためにどうしたらいいかを考える。

1, 6年生は、福岡県教育委員会が作成している同和教育副読本「かがやき」にある資料を通して学習しました。この「かがやき」は、同和問題をはじめとする様々な人権問題に関する子供たちの認識を確かなものにするために作られ、県内の全ての小中学校で活用されています。

3年生は、人権に関する総合的な学習で、これまでの学習を振り返り、いじめや差別をなくすために、クラスでできることについて話し合いました。毎年市内の3年生が資料として活用する紙芝居「たぬき村のぼんた」は、低～中学年の子たちにも差別のおかしさを学ばせるために、35年前に本校で作成されたものです。写真の社会教育集会所学習について



市役所の方の話を聴く様子

も、市内の全ての小学校3年生が行っており、この学習には、毎年、市役所の人権・同和对策室や生涯学習課、学校教育課の職員の方もゲストティーチャーとして参加し、子供たちに話をさせていただきます。

本校では、6年間を通して自他の人権を大切にできる子どもを育てるため、また、子ど

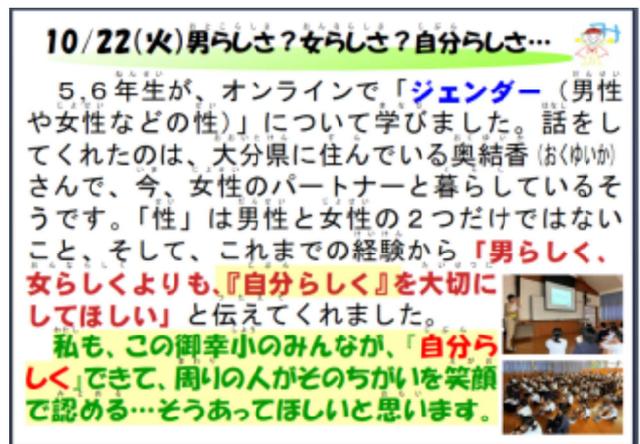
もの前に立つ私たち自身の認識や指導力を高め、人権感覚を磨くために、各学年で活用する資料を検討したりお互いに授業を見合ったり、校外での研修会に参加したりしています。

保護者の皆様にも、同和問題をはじめ様々な人権問題について、問題意識をもち、お子様と一緒に差別をなくしていく側になってほしいという思いから、参観後の懇談会を設定しています。それぞれの教室で、お子さんの授業での姿やご家庭での姿を振り返り、今後大切にしていきたいことについて、保護者の皆様と共に考える機会になったと思います。

『自分や友だちを大切にする』…これは、自分が大切にしてもらっているからこそ、「自分もそうしよう、そうしたい」と思うようになるもので、「大切にしてください」と教えられてできるものではありません。また、『いじめや差別をしないだけでなく、なくしていく』…これも、「してはいけない」と教えられてできるようになるのではなく、何がよいかを学び、大人の正しい行動を見て、「自分もそうありたい」と思っているようになるものだと私は思います。これらのことができるようになるかどうかは、周りの大人の行動にかかっています。私自身も、子どもの前に立つ一人の大人として、今後も差別の問題等について学び続け、自分自身の言動について振り返っていきます。

～ジェンダーについて学びました(高学年)～

5年生は、2学期の総合的な学習の時間にSDGs(「持続可能な開発目標」。簡単に言うと「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界の人々で2030年までに解決していこう」という計画・目標)について学んでいますが、その中の**目標5「ジェンダー平等」**の学習の一環で、大分県在住の奥結香さんの話を聴きました(オンラインで。貴重な機会なので、6年生にも呼びかけました。)この方は、自分と同性の女性をパートナーとする方で、「性別は男性と女性だけ」「異性を愛することが普通」と思っている人から見ると、偏見の対象となることもあります。自分は差別をしているつもりはなくても、「こういうことを学習していない」「知らない」ことで、無自覚のうちに差別をしてしまうことを学びました。なお、この方は、11月のうきは市人権セミナーの講師になっています。保護者のみなさんも、ぜひご参加ください。



<学習後の感想> ※抜粋

- ぼくは、みんなに対して、これからも「男だから」「女だから」といって差別しないようにしたいです。ぼくは、男らしく生きるのがいいと思っていたけど、そうじゃなくて、自分らしく生きることが大切なんだと思いました。
- 私は、女性、男性でも自分が思う性別でいいこと、女性でも女の子の人を好きになっていいことを知りました。
- 人の性別は2つだけでなく、他にもいくつもの性があると分かった。自分がしたいこと、自分の好きな服を着るなど、自分のやりたいことをやっていいと分かった。

↓ ※うきは市広報より

